

ばらんす

第44号

編集発行

大田原市総合政策部
政策推進課 市民協働係
〒324-8641
大田原市本町1丁目4番1号
☎ 0287-23-8715
FAX 0287-23-8748

輝 シリーズ

グリーンツーリズム 農家民泊を受け入れて

新江章平・由美子夫妻



グリーンツーリズムは、大田原の自然を生かし、農山村で生活し、交流すること。大田原市も推進しており、核となっているのは(株)大田原ツーリズムである。

今回、農家民泊を受け入れている北金丸の新江章平さんに体験を伺った。新江家は築70年の農家。周囲は田畑、池、小川そして木々に囲まれている。我が家を活かし農家民泊をやりたいと考えた。「まったくの他人を受け入れることは、精神的に負担……」との家族の意見はあったが「言葉の壁はあるが、地域のため、大田原のためになる！」と農家民泊の受け入れを決めた。

平成25年から年間4〜5回受け入れている。農泊者は国内のみならず、台湾やカンボジアからもあり、中学生、大学生、一般人と農泊者の幅も広がっている。

農家民泊は、入村式から始まる。農泊者と受け入れ農家が一堂に会し、それから農泊先に迎えられ、体験交流が始まる。

野菜の収穫、除草、鶏の世話などの体験を行い、土に触れ自然に囲まれた中で心も体も和らいでいく姿を見守った。

カンボジアの大学生を受け入れた時、「カボチャの原産はカンボジアかな」との日本語つぶやきに、「イエス」と答えてくれた。言葉は異なっても心

で通じる。こうした体験は何度もあった。また、お風呂をすすめると「オトウサンが先に」との言葉に仏教国ならではの敬老の心遣いを感じた。

台北の女子高生はスマホ初心者の私に使用方法を教えてくれた。孫は英語で交流し、今でもラインでつながっている。夕食は家族も交え大人数で食卓を囲み、腕相撲などをしたり交流は深まる。

やがて退村式。涙しつつ別れを惜しむ。それは自然の中での体験交流の答えであるとのことだった。

新江さんの農家民泊への思いに深い郷土愛を感じた。これからも大田原発信の農家民泊が広がることを願っている。(栗原)

“グリーンツーリズム”

グリーンツーリズムとは“農村で休暇を過ごすこと”、“体験生活を行うこと”。大田原ではさらに“農山村で体験を通しながら地域の方を交流し過ごすこと”を指しています。

近年、国内外問わず、多くの教育機関が修学旅行として農村を訪れるなど、教育活動の一環としてグリーンツーリズムを役立てています。

地域の魅力を最大限に活かし、体験や交流を通してかけがえない感動を味わえることがグリーンツーリズムの魅力です。



別れのとき



楽しい回らん



子ども食堂 フードバンク大田原

子ども食堂って

近年、両親の共働きや、核家族化の影響によって、子どもの孤食（一人で食事をとること）が増えています。また、経済的な理由で満足に食事が取れない子どもも少なくありません。

子どもやその親、または地域の人々に対して、無料または安価で栄養のある温かい食事を提供する場が子ども食堂です。

私たちにできることから始めよう

食事に困窮している子どもたちの現実を知り、ボランティアグループ「フードバンク大田原」では、「何とかしないと！」という強い思いを胸に、子ども食堂の開設へと動き始めました。3ヶ月の準備期間を経て、平成28年6月に「ふれあいキッチンとまと」、続いて平成28年12月に「やまのて子ども食堂」をオープンしました。

活動を通して食の素晴らしさを伝えたい

子どもの成長には栄養バランスのとれた食事が重要です。地元の食材を使った栄養満点の温かいごはんを作り、みんなで食卓を囲みます。大勢で食べる食事の楽しさも感じていただければと思います。また、ふれあいキッチンとまとでは、一緒に調理場に立ち、料理をする楽しさも体験してもらいます。

広がっていく輪

やまのて子ども食堂では、子どもやその親だけでなく、高齢者にも積極的に声を掛けているため、世代を超えた方々が触れあえる、地域のコミュニティの場となっております。参加者の輪が広がっています。

また、支援者も、当初は女性メンバーで調理していましたが、今では学生、社会人男性のボランティアも調理に加わり、支援者の輪も広がっています。

私たちの願い

子どもたちが元気に心豊かに育つこと。それが私たちの願いです。これからも「温かく、おいしい食事を提供したい」「子どもと地域の人たちが交流できる場を作りたい」「保護者の方も息抜きができる温かい雰囲気を作りたい」「ボランティアの皆さんと共に運営し、地域の支えの輪を広げたい」をモットーに活動していきます。（荒牧）



やまのて子ども食堂

日時:毎週金曜日 午後6時～午後8時
場所:大田原市山の手1-9-10
参加費:子ども300円、大人500円
※参加費については相談に応じます。
対象:幼児～ 地域の高齢者
連絡先:0287-48-6000(木村)



ふれあいキッチンとまと

日時:毎月第2・第4土曜日
午前11時～午後4時
場所:親子ふれあいキッチン(トコトコ大田原2階)
参加費:おこころざしで
対象:幼児～高校生、付き添いの方
連絡先:090-4741-1686(永森)



子ども食堂に気軽に ご参加ください。

子ども食堂は誰でも参加できます。みんなで一緒に楽しく食べて、新しい友達と会いましょう。

支援していただける方を 募集しています。

子ども食堂のお手伝いをしてみたい、食材を寄付したい、宿題を見てあげたいなど、子ども食堂を応援していただける方は、ぜひご連絡ください。

連絡先 認定NPO法人とちぎボランティアネットワーク県北事務所

TEL.0287-48-6000 (木村)

DV ドメスティックバイオレンスについてもっと知ろう!!

DVとは配偶者や恋人など親密な関係にあるパートナー、またはそのような関係にあったパートナーから振られる暴力のことです。DVというと身体的な暴力と考える方も多くいますが、身体的は暴力だけでなく精神的な暴力など様々な形があります。

DVは、被害者が暴力を愛情と思い込んでしまう、加害者に罪の意識があまりないという傾向があり、周囲も気づかないうちに被害が深刻化しやすい特性があります。DVを一人の力で解決することは難しいことです。DVかな?と少しでも感じたり、悩んでいる人を見かけたら声をかけてあげましょう。

精神的な暴力

大声で怒鳴る、脅す、無視をする、行動を監視・制限する、メールをチェックするなど

身体的な暴力

殴る・たたく・蹴る、腕をつかむ、髪を引っばる、物を投げつける、刃物などをつきつけるなど

DV

借りたお金を返さない、生活費を渡さない、外で働かせない、働かない、貯金を勝手に使うなど

経済的な暴力

性行為を強要する、避妊に協力しない、嫌がっているのにポルノビデオ・雑誌などを見せるなど

性的な暴力

こんな経験ありませんか?



DV防止講座を開催しました

- 【日 程】 平成29年11月17日
- 【会 場】 栃木県立黒羽高等学校
- 【講 師】 認定NPO法人ウイメンズハウスとちぎ カウンセラー 藤平 裕子 氏



デートDV(交際相手からの暴力)を正しく理解し未然に防ぐことを目的として、黒羽高等学校2年生143名を対象に講座を開催しました。人権に対する理解を深め、自身と他者との関係づくりについて学びました。

デートDVの被害者は女子大学生、女子高校生の5人に一人と言われてます。また、被害者のうち、誰にも相談しない(できない)人が50%、知人・友人に相談する人が25%という調査結果がでてます。自分や友人が被害者になってしまう可能性があるため、デートDVについて正しく理解しておくことが大切です。

DVを防止する話し方として、アイメッセージとユーメッセージがあります。アイメッセージを使ったお互いに理解しあえる会話とユーメッセージを使ったDVへ移行してしまう会話の違いが、先生二人のロールプレイングでわかりやすく紹介されました。(岩元)

* アイメッセージ: 自分(I)を主語にする話し方。自分の気持ちや感じていることを素直に言葉にするため、相手の心に届きやすい。
ユーメッセージ: 相手(YOU)を主語にする話し方。相手の行動を責めたり批判的な話し方になってしまいます。

高校生のアンケートより

DVを受けている人のほとんどが、じぶんがDVを受けていることに気が付いていないというのに驚いた

自然に出る言葉もDVになってしまうケースがあるので気を付けたい

先生方のロールプレイングを入れてくれてわかりやすかった

お互いに対等な関係を築く必要があるのだと思った

相談窓口

我慢したり、一人で悩んだり、自分を責めたりする必要はありません。まず相談してください。



与一ちゃんと愛弓さんも「女性に対する暴力をなくす運動」に参加しています。

大田原市子ども幸福課	TEL.0287-23-8932 月~金 8:30~16:00
大田原警察署	TEL.0287-24-0110
栃木県とちぎ男女共同参画センター	TEL.028-665-8720 月~金 9:00~20:00 土・日 9:00~16:00
認定NPO法人ウイメンズハウスとちぎ	TEL.028-621-9993 月~金 10:00~16:00
(公社)被害者支援センターとちぎ	TEL.028-643-3940 月~金 10:00~16:00
DV相談ナビ	TEL.0570-0-55210 発信地等の情報から最寄りの相談機関の窓口に電話が自動転送され、直接相談できます。 相談は、各機関の相談受付時間内に限ります。

日本女性会議2017とまこまい

【日程】平成29年10月13日～15日
【参加者】3,000人

“北の大地で語ろうこれからの未来の一步を”



大田原からは10名の参加者でしたがたくさんの学びとボランティアスタッフの皆様のおもてなしに感動し、癒しを戴きました。ダウン症の書家、金澤翔子さんの揮毫「共に生きる」素晴らしかったです。お母様の講演の中で「障がいとは何か」「違いとは何か」自分は世界で一番幸せな母親であるとのお話にも感動しました。渡辺えりさんの講演も楽しく聞かせていただきました。2日目は11の分科会にそれぞれ参加し、それぞれが抱えている問題について、男女平等参画社会について多く学びました。初めて参加しましたが、全国から3000人の参加者に驚き感動の3日間でした。来年は金沢、再来年は佐野で開催されます。また参加したいと思いました。(荒牧)

報告会

【日時】平成29年11月25日(土) 【参加者】
【場所】大田原市生涯学習センター 39名(報告者5名)

大田原市女性団体連絡協議会主催の日本女性会議報告会が開催されました。パワーポイントで写真を多く使った報告だったのでとても分かりやすく、会場からは魅力的でいろいろ興味がわき、日本女性会議に参加してみたいという声が上がりました。また初めて参加された方の報告がとても新鮮に感じ、多くの学びがあったことを感じたとの意見が多くありました。日本女性会議への参加申し込みが年々多くなっていることについてもこの報告会が意義深いと思われ、報告会を重ねるごとに参加者の方々の意識が少しずつ変化している様子を感じる報告会でした。(藤沼)



永岡さん

日本女性会議2018in金沢/2018年10月12日～14日

日本女性会議2019さの/2019年10月25日～27日

平成29年度大田原市男女共同参画推進事業者表彰

本市では、男女が互いを尊重し、責任を分かち合い、その個性と能力を發揮できる働きやすい職場づくりに積極的に取り組んでいる事業者を表彰しています。今年度は次の2事業者の受賞が決定いたしました。

【あいおいニッセイ同和損害保険株式会社 栃木支店大田原支社(損害保険業)】

- ・男性社員の育児参加支援
「タフパパ タフボス プロジェクト」に取り組み、男性の育児休業取得率100%を目指しています。
- ・プラチナくるみん認定を取得
高い水準の取組を実践する優良な子育てサポート企業として認められました。損害保険業界では第1号の認定です。
- ・保育園の設置拡大
従来の事業所内保育園に加え、企業主導型保育所の利用を開始し、社員の仕事と子育ての両立を支援しています。

【日本フェルト株式会社栃木工場(繊維製造業)】

- ・女性が安心して働き続けられる職場環境づくり
ライフステージに合わせて取得できる休暇や制度が設けられています。また、各種ハラスメント防止のため、相談窓口の設置や講習会を開催しています。
- ・働き方研究会を開催
従業員のワークライフバランスの充実を目的とした労使会議「働き方研究会」を定期的に開催しています。

編集後記

「ばらんす」の編集に参加して2年。毎回どんな記事をどのように編集しようかと悩んでいます。今、国内の動きは女性の働きやすい社会づくり、職場づくりを進めています。この「ばらんす」が皆さんをどれだけ応援できるかわかりません。しかし、男女共同参画のお手伝いとして、新しくチャレンジする女性、明るく輝く女性、努力する女性たちを取り上げていきます。(荒牧)

◆ 編集委員 ◆

荒牧孝道 岩元利孝
栗原敏子 藤沼久子
(五十音順)